

富士森公園の雨庭（レインガーデン）が、 季節の草花を楽しめるオーガニックガーデンに

そぼふる雨に耳を澄ませ、風情を感じていられたのも今は昔。この頃は毎年のように、日本各地が災害級の豪雨に見舞われ、雨に良い印象を抱けなくなってしまった人も多いかもしれません。

そこで八王子市では「床上浸水ゼロ」を目標に、豪雨に備えたまちづくりを推進すべく、市民の皆さん一人ひとりが実施可能な取組としてグリーンインフラ*の一種である「雨庭（レインガーデン）」（以下、「雨庭」とする）に着目しています。その普及促進を図る第一歩として令和7年3月、富士森公園の3カ所に雨水を貯め、浸み込ませる機能を持つ「雨庭」を、市内の造園事業者及び市民の皆さんと共に作りました。

*グリーンインフラとは、自然環境が有する多様な機能を、インフラの整備に活用する考え方のこと。



ワークショップ開始前の雨庭（レインガーデン）

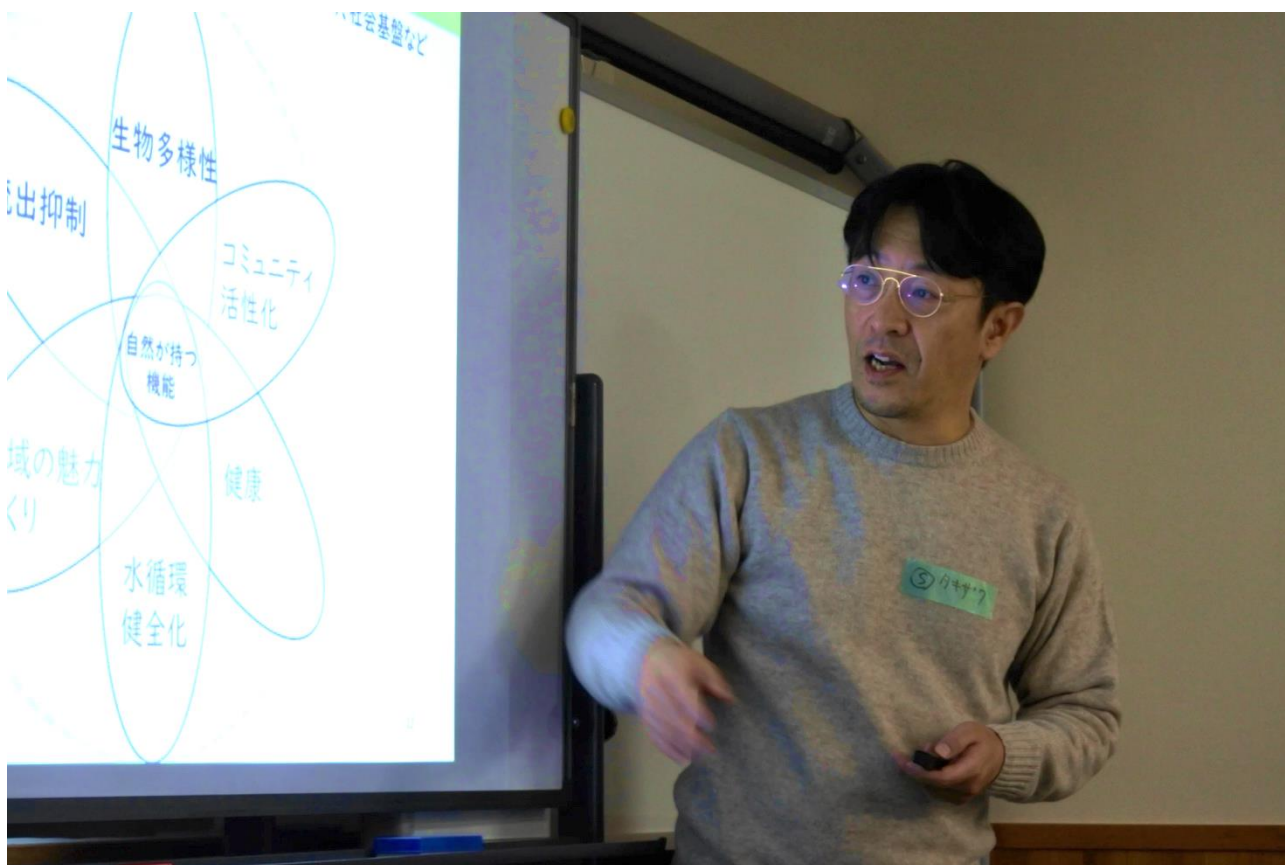
「雨庭（レインガーデン）植栽ワークショップ」の開催

秋も深まった令和7年11月19日（水）、富士森公園で雨庭設置後初めて行われたワークショップには、グリーンパートナー*を中心に、6名の方に参加いただきました。

*グリーンパートナーとは、「みどりを育む担い手」を養成するため、本市が実施しているグリーンパートナー養成講座の受講を修了した者。

＜滝澤恭平さんによる雨庭のレクチャー＞

13時に始まったワークショップ。八王子市環境保全課の担当者によるあいさつの後、まず行われたのは、富士森公園の雨庭を設計デザインし、設置のワークショップでも講師を務めた、滝澤恭平さんによるレクチャーです。



工学博士でもある株式会社ハビタ代表、滝澤恭平さん

そもそも都市型水害がどのような仕組みで起こり、それに対してグリーンインフラの多様な特性がどのように機能するのか。また、富士森公園の雨庭のデザインのポイントや植栽の役割について説明がありました。

<松下美香さん指導によるオーガニックな雨庭づくり>

室内でのレクチャーの後は雨庭へ移動。オーガニックガーデナーの松下美香さんの指導を仰ぎながら、家のお庭でも活用できる雨庭の管理を学びます。

まず行ったのは土壌ケア。植物の健康な生育に欠かせない良好な土壌環境とは、土が柔らかく土の中の菌が繁殖できる環境です。その土壌環境を自然の素材のみで整える方法を教わりました。

この方法で維持管理していくことで、雨庭の「雨水を貯め」、「浸み込ませる」機能を向上させることができます。

「雨庭の良いところは、育てることができるところ」と講師の松下先生は言います。



植栽リストの説明を行う、株式会社パノニカ代表、松下美香さん

軸の長いドライバー、通称「グリグリ棒」を使い、地面に深さ 20～30 cm程の細長い穴を開けたら、枝を使用し、わら、くん炭、落ち葉を押し込んで、土の中の菌が健やかに暮らせる環境に整えます。



土壌を整えたら、「カワラナデシコ」や「シュウメイギク」などの宿根草を中心に、四季を彩るさまざまな草花が植えられ、その間には、春に芽を出す球根植物を植えて、最後に水やりをすればオーガニックガーデンの完成です。



さすが、日頃からガーデニング活動を行っている皆さんだけあり、植え始めるとあっという間。最初は石が目立っていた雨庭ですが花々の芽吹きを待ちわびられる、より魅力的なものへと姿を変えました。

富士森公園東側入口にあるこの雨庭は、縁石をカットすることで園路を流れる雨水が雨庭に導水され、浸み込むタイプのものです。

作業後はその効果を検証。実際に水を流してみて、これまで降雨時には縁石沿いに道路に流出していた雨水が雨庭に導かれていく様子を参加者と確認しました。



<ハーブティーを片手に参加者同士の意見交換>

作業終了後は、再び室内に戻り、ガーデニングの本場イギリス式に、温かいハーブティーを飲みながら、2グループに分かれて意見交換を行いました。



初対面の参加者同士であっても、普段から植物に親しんでいる共通点があるせいか、2グループともすぐに打ち解け、盛り上がっている様子。意見交換の後は、一人ずつ感想を発表したので、ここで少しだけご紹介します。

【参加者の意見】

- グリーンインフラや雨庭については、今回のワークショップで初めて聞いたが、まちの中により普及したら良いと思った。
- 3月の雨庭づくりのワークショップに参加し、その後が気になっていたもので、今回参加できて良かった。また来年3月も参加して、今日植えた草花がどういう風に育っていくのか、見られるのが楽しみ。
- 自宅の庭の土が固くなってしまい、そこに雨水が溜まるようになっていたが、今回、グリグリ棒を使って土を柔らかくし、雨水を貯水するやり方を教えてもらったので、早速家族と一緒にやってみたい。

最後に、講師を務めた2人からあいさつがあり、ワークショップは終了となりました。2人の言葉も少しご紹介します。

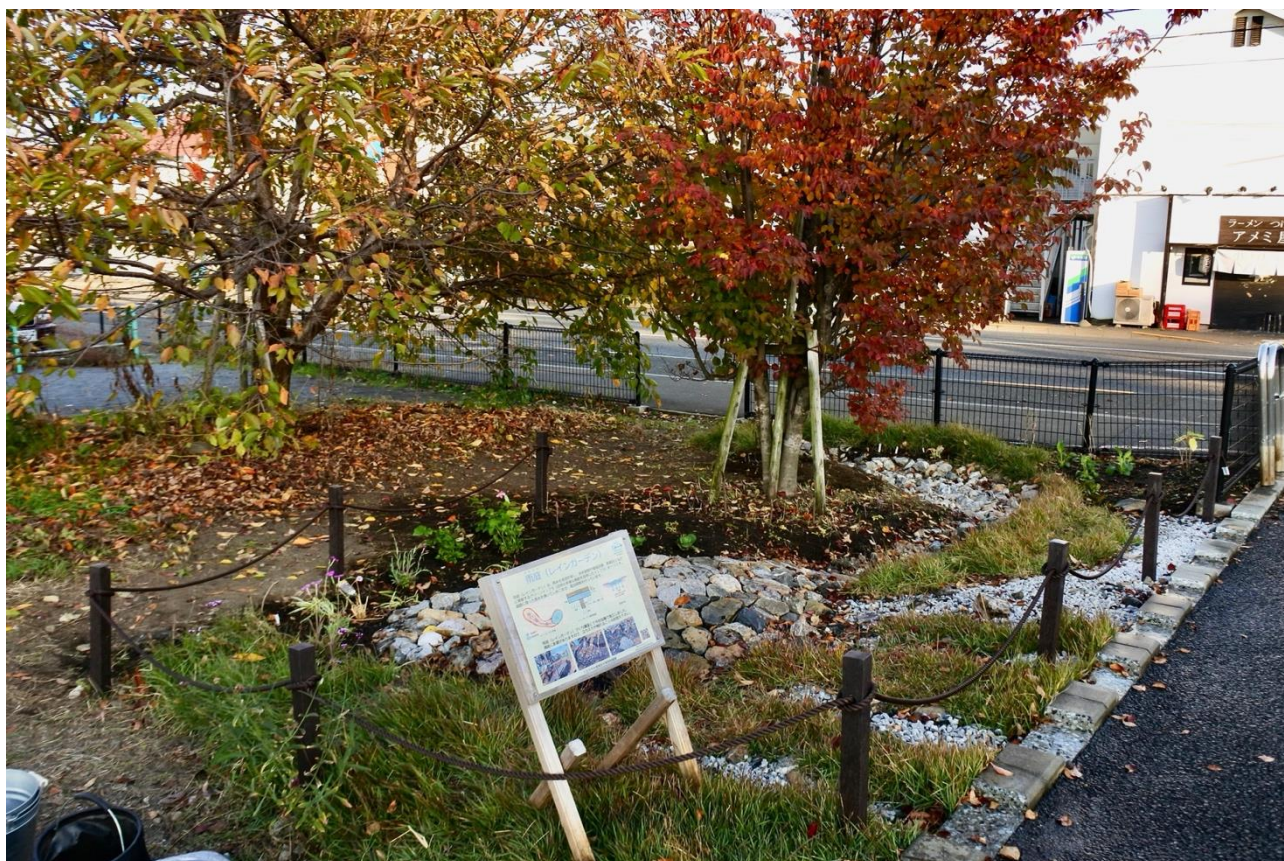
【滝澤】

雨庭は、手をかければかけるほど成長していく庭だと思います。やっていることは小さなことのようにも、同じように雨水を貯水できる庭がまち中にたくさんできて、それがつながっていくと、都市の水循環の環境はだいぶ変わってくるのではないかと思います。今日学んだことを、ぜひ皆さんの生活にも取り入れていただけたらありがたいです。

【松下】

今日お伝えした、グリグリ棒を使った土壌ケアのやり方は、お家のお庭やちょっとした空き地で手軽に実践できて、土の環境が確実に良くなる。土が柔らかくなることで水捌けも良くなり、水たまりやぬかるみの改善にもなるので、ぜひ試してみてください。次回のワークショップでは、今日植えた植物のメンテナンスを行います。

これからもこのガーデンを見守っていただけたらうれしいです。



作業終了後、土がよみがえった雨庭（レインガーデン）

グリーンインフラ、雨庭など聞き慣れない言葉に、難しい作業を想像してしまう方もいるかもしれません。

しかし、参加者の声にもあったように、身近な道具や自然にあるものを使い、自宅でも手軽に実践できる簡単な方法で雨庭は作ることができます。それが、愛着のあるお庭や空間となり、さらに雨水での困りごととも解決できるなら、その方法、ちょっと知りたくありませんか。



「これからもここを見守ってほしい」と松下さん